令和２年１月７日記者レク
「令和元年度　駿府城跡天守台発掘調査の成果」資料１

静岡市

令和元年度　駿府城跡天守台発掘調査の成果

静岡市観光交流文化局歴史文化課

１．平成 28～令和元年 10 月までの調査成果（公表済）

（１）大御所家康の天守台の検出（日本一の大きさの天守台）

（２）豊臣方の天守台と金箔瓦の発見

①平成 30 年 10 月 16 日発表（市長定例記者会見）

・豊臣方の天守台を検出

・金箔瓦（330 点）が出土

②令和元年 10 月 7 日発表（報道資料）

・豊臣方の天守台の石垣を良好な状態で検出

・鯱（しゃちほこ）などの金箔瓦（33 点）が出土

２．令和元年度の調査成果（今回公表）

（１）発掘による発見１：豊臣方の小天守台

・豊臣方天守台の東側に続く小天守台の石垣（一辺約 20m）を検出

（２）発掘による発見２：今川時代の遺構（溝＝堀）・遺物（陶磁器の破片）

（３）資料整理によりわかったこと

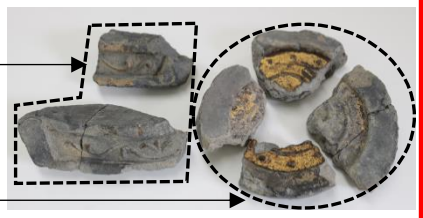
・金箔瓦の金箔の貼り方

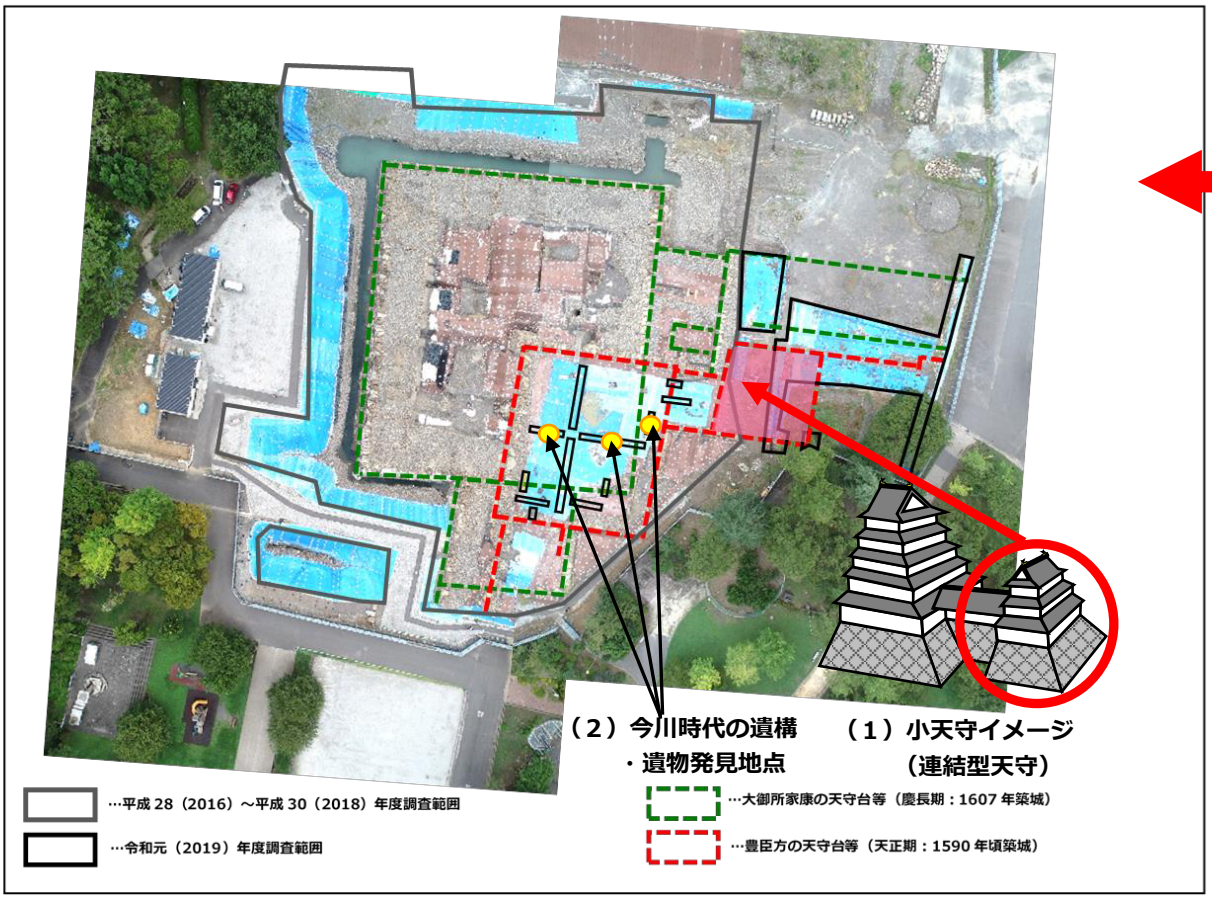
軒平瓦…豊臣の城と同じ金箔の貼り方（凸面に金箔を貼る）

軒丸瓦…安土城と同じ金箔の貼り方　（凹面に金箔を貼る）

・金箔瓦（軒瓦）の文様の特徴

軒丸瓦…安土城と同じ文様が存在





資料１

３．豊臣方天守台の築城に関する整理

（１）平成 30 年度発表時の見解

・発見された天守台＝天正期後半の豊臣方の城の特徴（石垣の積み方、金箔瓦など）を持つことから豊臣秀吉の家臣である中村一氏が駿府にいた時代（右表②）の天守台だと発表した。

（２）小天守台発見の意義

・令和元年度に発見された小天守台は、「家忠日記（家康家臣の日記）」に書かれている記述と時期・状況が一致する（右表①）。

・このことから当時、豊臣方の有力大名となっていた徳川家康が、豊臣秀吉の力を借りて築いた天守台である可能性が浮上してきた。

・なお、この時期（16 世紀末）の城郭で、発掘調査により天守と小天守の存在が同時に確認された例は今までにない。

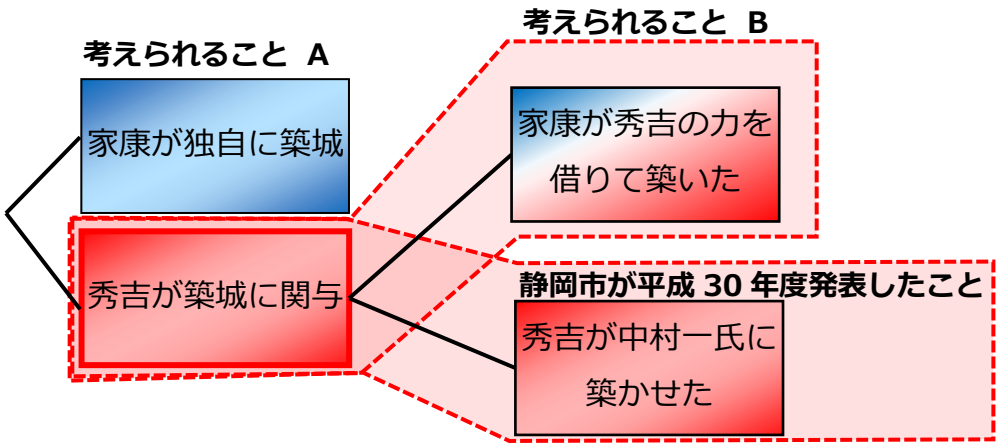
年	出来事	
天文5（1536）	今川義元、今川氏の当主となる	
天文18（1549）	竹千代（のちの徳川家康）、人質として駿府に到着する	
永禄３（1560）	今川義元、桶狭間の戦いで討死する	
永禄11（1568）	武田信玄、駿河国に侵攻し、今川氏は駿府から逃れる	
天正４（1576）	織田信長、安土城築城開始	
天正７（1579）	安土城天主完成	
天正10（1582）	本能寺の変（信長死去）	
天正11（1583）	秀吉、大坂城築城開始	
天正13（1585）	駿府の御屋敷普請が完了	大坂城天守が完成
天正14（1586）	家康が駿府に居所を移す	『家忠日記』の記述
天正16（1588）	駿府城天守の材木手伝普請	
天正17（1589）	駿府城小天守の手伝普請	①
天正18（1590）	秀吉、小田原北条氏攻め 小田原城開城、北条氏降伏 家康が駿府から江戸へ移封 中村一氏が駿府へ入る	②
慶長3（1598）	秀吉死去	
慶長5（1600）	関ケ原の合戦	
慶長12（1607）	家康、駿府城の大改修を開始	③
慶長15（1610）	駿府城天守完成	

（３）まとめ

・豊臣方の天守台は誰が築いたのかは、考古学の成果だけではなく、文献史学の専門家の見解も含めて、今後検討を行っていく必要がある。

・金箔瓦に豊臣の特徴を持つものと織田の特徴を持つものが混在する理由も含めて、専門家による検討を深めていく必要がある。

考えられること



４．今川時代の調査成果について

・天守台発掘調査により、トレンチ調査で今川時代の遺構・遺物の存在を確認できた。

・これまでに、駿府城公園とその周辺（坤櫓前、葵小学校、旧青葉小学校、城内中学校など）では、今川時代の遺構・遺物が確認されている。今回の調査で発見された遺構・遺物も同時期のものであると考えられる。